

# 水の都の風情に浸る水上バス その安全運航に活躍する mcAccess

## 信濃川ウォーターシャトル株式会社 様



所在地 ●新潟市下大川前通二の町  
2330番地33  
万代橋ビルヂング11階  
取扱ディーラー ●株式会社 新潟電波  
ご利用制御局 ●新潟制御局

# USER Reports



新しい新潟を発見  
できる交通手段と  
して多くの方に親  
しんでいただきた  
いですね。  
代表取締役社長  
栗原 道平さん

## 新潟の新しい観光の 目玉に 信濃川ウォーターシャトル

緑の芝が日差しに映えるやすらぎ堤、柳都大橋、新潟みなとトンネル、国際会議室を持つ31階建てビル「朱鷺メッセ」など、年ごとにその表情を変えていく新潟市。そして市民はむろん、市外・県外から訪れる人々に人気を博しているのが信濃川を航行するウォーターシャトルです。水上バスとも呼ばれていますが、川波をきって進むこのウォーターシャトルは、今や水の都新潟の風情を満喫できる新しい観光の目玉の一つとなっています。

発着場に降り立った人に感想をうかがうと、「川の中から眺める兩岸の景色が次々に移り変わっていき、気分がいいです」「橋の上や土手よりも目線が低いので、景色が新鮮に見えます」「40～50分（朱鷺メッセ～ふるさと村間）という運航時間は長くも短くもなく、いいですね」「親戚や友人が来たら、ぜひ乗せてあげたい」と皆さん、存分に水の都の情緒を堪能されたようでした。いま新潟で一番関心を寄せられている朱鷺メッセの展望空間から日本海や飯豊連峰、角田山・弥彦山、蒲原平野などのスケールの大きな風景を眺めたら、すぐ下にある発着場からウォーターシャトルでふるさと村へ行き、新鮮な海産物などのお土産を買って帰る。この爽やか観光は、今後、新潟で注目されるお楽しみコースとなりそうです。

## 信濃川を溯るコースで mcAccessを試して 導入決定

「この4月、分水町の『おいらん道中』に合わせて、アナスタシア号を上流へ運

航させたとき、mcAccessのデモンストレーションをさせていただきました。すると、音声はクリアで、今まではまったく違いました。そして上流へ持っていってもまったく問題なし。すぐに導入を決め、5月から運航に使用しています」と話してくださったのは、信濃川ウォーターシャトル株式会社取締役業務部長の中村文弘さん。

mcAccessの採用は、分水町で開催される「おいらん道中」に花を添える遊覧運航のため、信濃川を溯ったアナスタシア号での使用テストで決定されたのですが、その理由の第一は、どんな状況においても音声は明瞭で、途切れることがないということでした。これまで使用していたPHSでは電波が届かないことがあり、会話中に音声は途切れることもあったそうです。同社では、事務所と2隻のシャトルの間で交信されていますが、mcAccessの最大のメリットである音声はクリアであることは、安全運航を第一にしている同社にとってとても心強いものであるようです。

通常の信濃川は波も比較的穏やかで快適な乗り心地が楽しめますが、時には流

木が流れてきたり、漁網を仕掛けていたりすることもあります。そんなとき一方の船が他方の船に情報を送って、事前の安全を確認しながら運航することができます。

そのほか、事務所と2隻の船間で同時に通話が可能であることもメリットで、連絡に手間がかからないところもご好評をいただいている理由になっているようです。

## 通勤の足として ショッピングを楽しむ 交通機関として

市民が川に一層親しむことをめざして平成10年3月、市民株主による信濃川ウォーターシャトル株式会社が設立され、運航が開始されました。朱鷺メッセがオープンした今年の5月からは、乗り場を朱鷺メッセ前に移転し、新潟グランドホテル前、新潟県庁を經由して新潟ふるさと村につなぐ船便となりました。

船は現在のところアナスタシア号とベアトリス号の2隻ですが、将来的には船を増

やす計画も持っておられます。

中村さんは、「まずは一人でも多くの方々に、ウォーターシャトルの快適さと便利さを味わっていただきたいと思います。そして通勤の足としてご利用いただいたり、ふるさと村でお土産を買って、帰りには万代シティや古町で食事やショッピングを楽しむなど、比較的短い時間の中ではありますが充実した半日を過ごしていただけるのではないかと思います」

現在の運航は、通勤時間帯の便が増発されて1日9往復となっています。ふるさと村の駐車場を利用してウォーターシャトルに乗り換える「パーク&ライド」方式で通勤する人が増えれば、市内の渋滞の緩和にも貢献できそうです。

市内電車や地下鉄のない新潟市に、地球環境への負荷が少ない公共交通機関が発達することは、都市環境を保持する面でもますます望まれることです。このウォーターシャトルが新潟の街の活性化や環境保全のために、今後さらに発展していくことを多くの人々が願っています。

「アナスタシア号」と「ベアトリス号」



船内のmcAccess無線端末機



出発前に安全確認



mcAccessは操作も簡単で効率のよい連絡ができます。  
取締役業務部長 中村 文弘さん

同社近景

